

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年6月29日（火） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】 二俣瀬ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者5名 二俣瀬地区コミュニティ推進協議会会長：綿部 謙造 二俣瀬地区自治会連合会会長：鳥海 善春 二俣瀬地区民生・児童委員協議会会長：原田 和夫 環境衛生連合会二俣瀬支部支部長：辻野 正吾 二俣瀬地区人権推進協議会会長：折井 汲子 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、市制施行100周年記念事業推進課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○北部の地域活性化について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・2、3年前の立地適正化計画の説明会で、北部地域は地域活性化や高齢者対策などの施策の対象外であると言われた。このままでは、10年後には耕作放棄地だらけになり、雑草の中で生活をするようになる。いま一度、北部地域の活性化について考えてほしい。また、地域住民が取り組めることについて、アドバイスがほしい。 【市長】 ・市全体や各地区の人口減少問題に、対応していかなければならない。 ・地方創生の政策の中でも、一番大事なことは「仕事」を作ることである。全国的にみても、成功しているところは、地域に仕事を作っている ・二俣瀬地区の主要な産業は農業だと考える。今年度から農林水産業振興計画の策定を開始した。生産から販売までの農業施策について、対応していきたい。 ・二俣瀬地区は国道2号線が通っており、交通の便がよい。また、農業だけでなく、酒造り、魅力ある地区である。 ・北部地域を盛りあげようと、比較的若いメンバーで“北翔六星”が構成されたと聞い

ている。北翔六星のような団体の意見を聴き、北部地域の強みは何かを見極め、それを磨きあげながら、一緒に取り組んでいきたい。

○善和養鶏場の環境問題について

【自治会連合会会長】

- ・善和養鶏場の環境問題が、なかなか改善していない。臭気測定や指導を行っていると思うが、いまだに臭気を感じることもある。測定結果を有効活用し、環境問題への対策強化をお願いしたい。地域住民からは、善和養鶏場の中に入って調べたいとの意見もある。一番被害を被っている近隣住民に、連絡して対応してほしい。

【市長】

- ・令和2年度においては、毎月4回の臭気調査を行っている。周辺の環境をそこなうレベルの臭気とは認められていないが、機械で測った数値と実際の人間の鼻で臭った感覚は、異なってくる。数値が良いから問題ないということではなく、特に臭いがひどい時は、地域の皆さんから市に連絡をいただき、職員が立ち会って状況を確認したい。また、被害が大きい近隣住民の所へ職員を伺わせる。

○二俣瀬地区で運行されているデマンドバスについて

【民生・児童委員協議会会長】

- ・二俣瀬地区で運行されているデマンドバスについて、山口市への乗り入れが可能になれば利用者増につながると考えている。利用者が少ないから減便するのではなく、利用者が増えるような運行方法を考えてほしい。

【市長】

- ・デマンド交通を導入する場合、地域の居住地から一番身近な交通拠点までのルートを考える為、自宅から目的地までの利用については、本来の意図から離れており難しい。しかしながら、非常に不便、あっても利用価値がないという強い意見もある。どうすれば地域の皆さんに使っていただけるのか、検討していきたい。今後のニーズ調査にぜひご協力をいただきたい。
- ・他地区でも、デマンド交通のこと知らない方、難しいと思っている方が非常に多いので、周知にも力を入れたい。

○閉園となっている善和園について

【環境衛生連合会支部長】

- ・若年層の定住対策を考えてほしい。例えば、約10年前に閉園となった善和園の有効利用を進めるなどして、少子高齢化に対応した住宅施策等を検討してほしい。

【市長】

- ・現在、建物等は残っており、一部老朽化して廃墟のようになっている。速やかに利用者から更地での返還を求めたい。
- ・少子高齢化に対応した住宅施策等に活用するなど、定住施策等も視野に入れて考えて

いきたい。現在調整中なので、状況次第でまたご報告する。

○特認校就学制度について

【人権推進協議会会長】

- ・特認校就学制度の対象校である二俣瀬小学校の魅力を、より多くの保護者に周知し、児童数を増やしてほしい。地域との協力体制はできている。
- ・自然の中で育つことができ、児童の教育上も良い影響があると思う。
- ・保護者の送迎が条件となっており、特認校就学制度の利用者には負担となっている。スクールバス等の利用を検討してほしい。

【市長】

- ・就学時健康診断における周知文の配布、広報うべでの掲載、19の小学校の全児童及び11の中学校の一年生へ周知文の配布を行っている。自然豊かなエリアで教育を受けさせたい保護者や移住を目的としている方々にも、特認校制度の魅力を紹介するなど、周知に努めていきたい。
- ・保護者の送迎条件については、今後スクールバスなどの可能性も検討したい。

○交通安全について

【自治会連合会会長】

- ・善和から宇部テクノパークに繋がる道が、朝夕の交通ラッシュ時の抜け道になっている。細い道を猛スピードで通り抜けるため、地域住民は非常に迷惑し、危険を感じている。道路の拡幅などを検討してほしい。

【市長】

- ・道路を拡幅するとトラック等が通りやすくなるため、さらに交通量が増えてしまう可能性がある。まず、大型車両の通行状況を調査し、そのうえで対策を検討して報告したい。

○山中交差点の渋滞緩和及び人口増加対策について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・宇部テクノパーク等の企業は地区外からの通勤者が多く、山中交差点の渋滞について地域の問題となっている。山中交差点の渋滞緩和策の1つとして、二俣瀬地区に市営住宅を建設してはどうか。渋滞緩和及び少子化対策になる。

【市長】

- ・市営住宅は、住居に困った方に住んでもらう施策であるため、渋滞緩和策の1つとして建設することは難しい。今後は、二俣瀬地区の空き屋を活用した仕組みを考えるなど、テクノ団地に勤務する方の定住につながる取り組みを、検討したい。
- ・山中交差点の渋滞緩和策として、今後、右折車線ができると県から聞いている。さらに、テクノパークの山口市側、宇部市側の両方の交通量が多いということで、大幅な拡幅計画が進んでいることについても県に確認済みである。

○国道2号線の新たなバイパス建設の国への要望について

【民生・児童委員協議会】

- ・二俣瀬地区の国道2号線のバイパスの建設計画については、数十年前に一部地元住民の反対により中止になった経緯がある。現在、交通量は非常に多く、交通事故の危険度は増している。
- ・恒常的な渋滞も発生しており、山間部でカーブが多いことから、重大な交通事故の発生が懸念される。
- ・地域住民が安心して暮らすため、新たなバイパスの建設を推進するよう、国・県等の関係機関への働きかけをお願いしたい。

【市長】

- ・国道2号線ということもあり、地域づくりを進めていく上でバイパスが必要となれば、検討していかなければならない。半世紀ぐらいはかかる大事業になるため、県と連携し、国にしっかり働きかけたい。

○公共施設のトイレの水洗化について

【環境衛生連合会】

- ・厚東川河川敷公園と丸山ダム公園の2か所の公衆トイレ（県所有）が、未だに水洗式ではない。衛生上も問題があるため、誰もが気持ちよく使用できるよう、県に対して改善を強く要望してほしい。

【市長】

- ・高齢化が進んでおり、特に洋式の水洗トイレについて、県に強く要望していきたい。

○土地改良区内にある農地の転用について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・国道2号線沿いにある農地の多くは基盤整備しており、農地転用が許可されず、農地外の利用ができない。さらに、土地改良区の組織を解散したいが、制度が邪魔をし解散もできない。国・県に対して改善を強く要望してほしい。

【市長】

- ・土地改良法に関しては、実際の生活と制度が噛み合っていないと感じている。地方創生を進める中で、一つのハードルにもなっている。
- ・他の方法や新しい制度等がないか、国・県等の関係機関へ確認する。また、宿題として持ち帰る。

○農泊の現状について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・1、2年前、観光コンベンション協会から農泊を推進するとのことで、萩方面へ視察に行ったが、その後、農泊の話をきいてない。現状について知りたい。

【市長】

- ・宇部市の農泊に関する動きについては確認する。
- ・コロナ禍で農泊事業を進めることは難しいが、アフターコロナを見据えた地方移住の施策の1つとして可能性がある。その場合、地域に迷惑をかけるようなことがないよう、事前に意見をいただきたい。

【市長】

- ・地域の皆さんと課題を共有し、それらを解決しながら、進んでいきたい。
- ・いろんな繋がりを大事にしながらこの地区を発展させていきたい。引き続き、皆さんから貴重なご意見をいただきたい。
- ・やろうとしたことができなかった場合は、できなかった理由を地域の皆さんと共有しながら、一步一步前に進んでいくこと、これが地域づくりで大事なことだと思っている。